

お 泉 水

1987年10月15日

◇昭和62年度全国公共図書館整理部門研究集会

テーマ これからの図書館資料と目録業務

9月30日・10月1日の両日、岡山市で「これからの図書館資料と目録業務」を研究テーマに昭和62年度全国公共図書館整理部門研究集会が開催された。参加者は270名であった。

研究内容は「図書館界の動向について」栗原 均（日本図書館協会事務局長）、「日本目録規則の課題と将来—オンライン化が進むなかで—」丸山昭二郎（国立国会図書館図書館研究所長）の両氏の講演に続き、日本目録規則1987年版における記述と標目についての講義があった。

講演で栗原氏は、現在の公共図書館をとりまく諸問題と機械化の進展への対応の仕方およびマークの標準化について、丸山氏は、1987年版日本目録規則の制定に至る経緯と新しくとり入れた事項などについて説明し、今後1987年版の使用実績を反映しつつ常時修正、拡充していくと述べた。

◇昭和62年度全国公共図書館協議会総会・研究集会

6月26日、東京都立中央図書館講堂で全国公共図書館協議会定期総会および表彰式、研究集会が開かれた。前田会長（都立中央図書館長）は開会あいさつで「町立図書館の設置率は低いが館数は着実に増えて来ている。臨教審の第3次答申でも生涯教育の基盤整備として公立図書館の充実の重要性がうたわれており、責任を痛感している。各図書館と連携を緊密にとり、協力しあって地域住民の期待にこたえていきたい」と述べた。総会の議題①昭和62・63年度役員選出について②昭和61年度事業報告および決算について③監査報告④昭和62年度事業計画および予算（案）についてはそれぞれ全員異議なく承認した。

定期総会のあと、表彰式があった。全公図表彰規程による昭和62年度表彰者は73名。本県関係者では三田村久治（武生市立図書館協議会委員）広部英一（県立図書館職員）井口昌保（同館職員）の三氏が表彰された。

研究集会では記念講演があった。講師は長谷川逸子氏。演題は「建築家からみたこれからの文化施設」であった。長谷川氏は国際的な建築家として有名であり、日本建築学会作品賞を受賞している。講演は藤沢市文化センターの設計コンペで最優秀賞を受賞した自作品を中心に、将来の公共建築はどうあるべきかを体験的に考察したものでした。

◇昭和62年度東海北陸地区県立・指定都市立図書館長会議

昭和62年度東海北陸地区県立・指定都市立図書館長会議が、7月15日・16日の両日三重県志摩郡大王町で開催された。日本図書館協会理事会および公共図書館部会第1回幹事会、各館の昭和62年度事業計画および当初予算等の報告のあと、昭和62年度東海北陸地区公共図書館研究集会の開催等について協議した。研究集会は11月19日・20日、名古屋市博物館で行われ、テーマは「視聴覚資料の収集・整理と貸出しについて」で、各県に対し参加の要請があった。

◇日本図書館協会関係全国研究集会

昭和62年度

(10月以降分)

区 分	期 日	テ ー マ
奉 仕 部 門 (山梨県石和町)	昭和62年11月 26日(木)・27日 (金)	時代の進展に対応する 図書館奉仕のあり方
移 動 図 書 館 分 科 会 (高知県高知市)	昭和62年12月 3日(木)・4日 (金)	図書館組織網形成の各 段階における移動図書 館の役割と課題
全国図書館大会 (東京)	昭和62年10月 28日(木)・29日 (木)・30日(金)	図書館：今日と明日の 課題
東海北陸地区公共 図書館研究集会 (名古屋市)	昭和62年11月 19日(木)・20日 (金)	視聴覚資料の収集・整 理と貸出しについて —著作権法に係わる問 題と貸出の諸問題—
日本図書館協会 地方講習会 (三重県)	昭和63年1月 下旬(予定)	未定

昭和63年度(予定)

区 分	開 催 地	区 分	開 催 地
整 理 部 門	福 島 県	参 考 事 務 分 科 会	千 葉 県
奉 仕 部 門	和 歌 山 県	児 童 奉 仕 分 科 会	石 川 県 金 沢 市

新設図書館紹介

＜坂井町立図書館＞

パソコンによる図書館システム導入 農村地帯に開館、半年を経て

わが坂井町立図書館は、人口11,534人、世帯数2,625戸、中学校1校、小学校4校を有する、面積31.88km²の農業を基幹産業とする町に今年4月15日に開館しました。蔵書数18,000冊（うち一般書11,500冊、児童書6,500冊）で、利用登録者4,000人（8月末現在）利用状況は1日平均110冊です。

又、当町は共働き率が高いということもあり開館時間は午前10時から午後6時30分までとしています。

実際の業務にあたる職員が女子3名ということで、パソコン（NEC9801VX）を導入し、プログラムパッケージ（PENTAX社、BOOKMAN）を載せ、市販マーク（TRCマーク）を利用し運用しています。

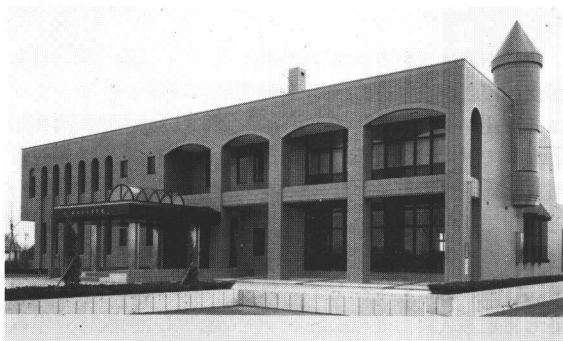
図書館の仕事は、想像以上に人手を必要とすることが多いのですが、機械で処理できることは機械にまかせ、利用者の利便を図るためのサービスをより充実させるべく考え導入致しました。

実際にコンピュータを利用してみますと、正しい統計資料がわずかな時間で入手できること、図書検索においてそ

の図書が現在どうなっているのか——貸出中なのか、予約がかかっているのか——が利用者の目前で画面上に示される等、人手では大変手間のかかることが即時に応答できることに満足しています。

今後は読書サークルの育成や、子ども向けのサービス等を考えています。そして住民の方に図書館のある楽しさ、便利さを味わって頂けるよう努力して参ります。

坂井町立図書館 水野晴美



▲新装なった坂井町立図書館

＜永平寺町立図書館＞

動く図書館「あじさい号」発車！

永平寺町は総面積50.19km²、圍繞（いじょう）する山なみ、豊かな水量の九頭龍川に育まれ、緑濃き自然に恵まれた町である。また、農業と繊維の町でもある。この町の町に、黄色いボデーに町花あじさいをかざり、本年3月23日、多数の来賓、町民が見守るなか移動図書館車「あじさい号」が誕生した。



▲あじさい号の発車式

60年11月、観光会社を営む野路氏が生涯学習の重大性に理解を示され45人乗りサロンカーを図書館に寄贈されることになった。

より効果的に車を運用するために話し合いを何回も重ね、動く図書館として、また住民のいこいの場とするため、サロンをそのまま残して活用することになった。

内装、外装、パソコン、ビデオ、テレビ設置は野路氏のご厚意、本棚は老人クラブの田中氏のご厚意、そして県立図書館より500冊をお借りする等、多くの善意により念願の移動図書館車誕生となったのである。

現在、1,200冊の本を積み、月曜日から金曜日（午前8時30分から午後4時迄）は各保育園、小中学校前に駐車して児童生徒、父兄に貸出しを行なっている。

また、月2回（午後7時30分～9時30分迄）集落の各ステーションに停車し貸出しを行っているが、常連の方も出来職員も元気づけられている。

サロンとしては、月4回のお話し会に、そして希望される集落に出かけビデオ等で楽しんで頂いている。

今日もあじさい号はテーマソング「鐘のなる丘」を元気づけよう町民の待つステーションをめざし走っていく。

永平寺町立図書館 河合伊佐子

福井大学附属図書館の電算化について

今日の図書館は、個々の図書館業務を独立完結させれば事足りるとするわけには行かなくなった。個々の図書館が個々の目録をどんなに立派なスタイルで刊行したとしても、それだけでは、一般のニーズを十分に満足させるわけには行かなくなった。大量のデータをアクセスするに適したマシンが、字義通り日進月歩の勢いで革新され、通信技術もそれに伴って発達して行く。コンピュータによるネットワークの網をいかに巧妙にはりめぐらすかが、大きな課題であり、思考を重ねる焦点となる。

幸いにして、福井大学では昭和62年2月に「福井大学情報処理センター」が設置された。そして、この共同利用の目的の一つに図書館業務が掲げられ、学内ネットワークの柱の一つに組入れられた。建物も図書館の傍らである。

センターマシン(M360)を利用しての図書館での受入

全国の大学図書館が所蔵するところの図書は、約1億4千万冊に達するといひ、雑誌の所蔵種類は180万種に及んでいるという。これらの資源は、個々の大学図書館に属するといひながら、それらは共有すべき日本の確かなる資源であって、それらの資源を活用すべき方策として、文部省は、学術審議会の答申「今後における学術情報システム」(昭和55年)に基づき、東京大学文献情報センターを経て、昭和61年4月、国立の共同利用機関として「学術情報センター」を設置した。学術研究の環境整備をめざした学術情報センターの機能・サービスはいくつか数えられるが、その中心となるのは、前の共有すべき一大資源としての、各大学図書館が所蔵するところの図書雑誌群の目録・所在情報データベースを作りあげ、その情報を速やかにそして的確にサービスすることにある。言葉をかえていえば、この



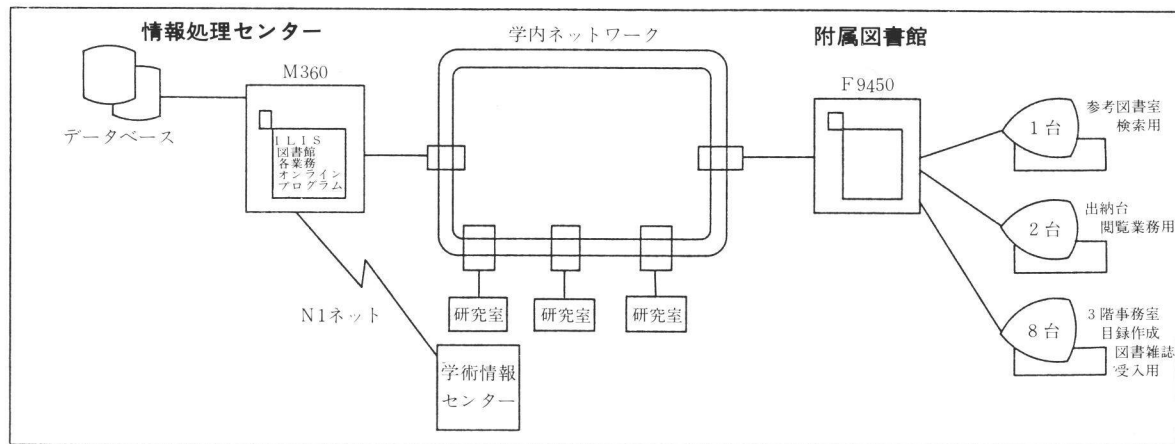
システムの傘下に入ることによって、地方の小規模の図書館であっても、全国に散在するところのぼう大な情報資源を活用することができるわけである。

従って福井大学の今回のシステムは、この学術情報センターと接続することによって、自らの受入れた図書情報を目録作成のおり、オンラインでセンターのデータベースに登録し、所蔵雑誌をもまた登録することによって、自らの資源を利用してもらうと共に、自らも他の所蔵資源を活用する、いわゆるgive and takeの体制にした。このシステムは、少数の大学のみの参加では、その効果薄いのであるが、全国の国立大学の趨勢は、陸続

として、これに参加する構えを見せているので、遠からずして、巨大なる全国ネットワークが完成するであろう。夢はふくらむが、実務は大変である。閲覧・目録関係は昭和62年春スタートさせた。受入関係は63年の春、雑誌関係は64年の春スタートの予定である。(福井大学 平泉)

として、これに参加する構えを見せているので、遠からずして、巨大なる全国ネットワークが完成するであろう。

夢はふくらむが、実務は大変である。閲覧・目録関係は昭和62年春スタートさせた。受入関係は63年の春、雑誌関係は64年の春スタートの予定である。(福井大学 平泉)



第28回福井県学校図書館研究大会

「なんてうららついているんやろう！」昨日の雨はすっかりあがり、朝から澄み切った快晴。会場移動のことや駐車場としてグランドを使わせてもらうことで、昨日は気を揉んでいたがそのような心配は全くなく、10月13日を迎えた。7時に学校で落ちあう。事務局の仕事を中心になって進めてきてもらった小辻さんの第1声。昨年以来何回となく通いつめたこの道。昨日は不足した大会要項を送り届けたり、最後の準備のため実にくまめに東奔西走。開発センターでは教育長の陣頭指揮。教育委員会で中心になって頑張ってきた社教主事の河合さんはトレパン姿で走り回っており、移動図書館あじさい号から雑巾をぶら下げ飛び出してきた。男子職員は課長さんをはじめ250脚の椅子を3階の講堂に運び上げ、きれいに並べており、またある人は看板書きで、まるで戦場みたいな忙しさ。学校では大掃除や分科会場の整備。

地元の先生方も計画に従ってそれぞれの会場に集まり資料の袋詰めや受付などの準備とてきぱきと処理していく。

「昨日志比小学校を見にいっただけで、間が悪いぐらいだった」と小辻さんはいう。「本当にみんな一生懸命やってくれたんや。」

「昨日中学校の校長さんいうんや。袋に入れた学校教育計画はこの3月に完成したんやと。しかも、学年末の忙しいとき全職員泊まり込みでまとめあげたんやと。だから4月当初から新任者も含め一斉にこの構想によってスタートすることができたんやと」「永平寺に図書館あったかいね」「開発センターの2階に小さい部屋があるだけやがのう」「その小さい図書室が公立図書館の分科会をもつなんてすごい」「そこに今度の大会の意義があるんでないかのう。」ぼつりぼつり話しているうち永平寺中学に着いた。昨日間に合わなかった研究会場の立派な看板が校門に取りつけてある。生徒たちは一斉掃除の真っ最中で、鶴田校長も玄関に出て掃除の指示をしておられた。「天気が良くてよかったですねえ」

この大会から隔年おき実施になり、順番の坂井・吉田・

足羽地区は、これまで何回か坂井郡で開催されてきたが、今年は視聴覚の全国大会が行われるためどうしても坂井郡ではやれないということで、どこを主会場にしてやるかで紛糾したが、実に気持ちよく永平寺町で開催されることになった。しかも町制25周年記念事業の1つに組み入れ、地域ぐるみの研究会を持たせてほしい。特に町民の参加できる分科会を設けてほしいという要望が出されてきた。永平寺町図書館協議会が学校との密接な連携のもとにそれぞれの活動をしてこられたことを知り、むしろこれは切り離すことができないのではないかと考えた。高校はこれまで授業参観をしてこなかったが、中学校の方はどうせやるならお客さんは多いほうがやりがいがあるとのことで、見せていただくことができた。3つの公開授業は全く違ったタイプのもので、特に読書座談会には3人の町民の方が生徒と

一緒に座談に加わって、なごやかな雰囲気なかで展開された。

1時間の公開授業の後、7つの分科会が持たれ13名の方による提案をもとに熱心な討議が行われた。本大会の主題は「児童・生徒の学習を、さらに深め、豊かな人間性を育てる学校図書館のあり方を求めて」であった。我々はとかく

学校のなかだけで教育を考えがちであるが、本大会は地域や父兄との連携のもとに進める新しい1つの行き方を提起した点で画期的な大会であったのではないかと考えている。さらに永平寺監院上月宗老老師の説かれた「禅の心」が、豊かな人間性を育てる要諦であり、感銘深い講話を聞くことができた。

300余名という多数の方のご参加を得た。いろいろなことがありましたが、多くの方の温かい御協力により無事大会が終了できました。ことに永平寺町の皆さんには町長さんをはじめ婦人会から子供会まで、駐車場の世話から接待やアトラクションと大変お世話になりました。永平寺町の益々のご発展を祈念し、報告にかえます。

(福井県学校図書館協議会事務局 斎藤寛昭)



談 話 室

選 書

夥しい出版量と限られた予算の中で、住民の要求に応えつつ蔵書を充実していく事は至難の技である。過去の評価の定まったものを選ぶだけではなく、常に現在と対決しなくてはならない。手持ちの武器は自分の判断力と、これ又夥しい書誌情報。忙しさが常態になれば、つつい安易な考えに傾く。「選書は利用の多い方を優先すべし。」しかし、館員の主体的判断を停止してしまったのでは成長は望めないし、第一、図書館は貸本屋ではない。当然、利用者無視の選書もありえない。だから難しい。図書館に入って目も近くなり、白髪も増えた。単に年だという人もいるが。

福井市立図書館 森瀬 一

夢みる図書館

現代の図書館は市民の生涯学習の場としての働きと同時に、いこいの場、あるいは娯楽の面もそなえた図書館が要求されています。昔のような堅苦しい図書館では市民から見ずられてしまいます。子どもから高齢者まで気軽に利用できる図書館でありたいと思っています。子どもたちが、おしゃべりしながら図書館への道を入ってくる姿を眺めていると、幸せな気になるのである。

小浜市立図書館も昭和34年に建てられたもので施設が古くなり狭くなってきましたので新しい図書館を作る計画がありますが、21世紀にふさわしい市立図書館を作りたいものです。

小浜市立図書館 小畑昭八郎

鉱脈をもつ図書館

鳴りもの入りで利用者拡大をねらうのもいいが、学び取ること見つけ出すことへの道具の揃った作業場を、計画的につくっていききたい。言わば“鉱脈のある図書館づくり”地下資源が銅であれ、銀であれ、それは其の土地の歴史と町民のニーズに応えねばならぬ。町村図書館は、それだけの個性と気概をもってよいのではなからうか。

- 金津は約200基の横山古墳群を中核に、南北に翼をひろげる古墳帯。その地底の古代語り部の声を聞くために一
- 金津は蓮如の里。北陸真宗教団と蓮如を学ぶために一
- 幼児とお母さんのための、えほんの選び方与え方の学習に約立つために。これが小さな図書館の小さな願いです。

金津町立図書館 山口喜三太

高専図書館と私の役割

「ラジカセ」は、ラジオとテープレコーダの複合商品です。同様なものに、デジタル、アナログ表示を複合させた「ディジアナ」時計がある。70年代後半に私達の周りに出現した数々の複合商品は、あの三Cのポスト商品として売り出された、メーカー苦心の作品です。今や世に氾濫している、マイコン搭載形多機能製品は、この考えの延長にあるものでしょう。二種以上の機能を一台の製品に盛り込めば、利用者にとってより便利な商品になるはずで。さて、私の様な技術者教師と図書館との組み合わせは、この様な複合化思想による人事構想の結果ではあるまいかと考えます。高専図書館に生まれる変化を私は育てていきたい。

福井工業高等専門学校図書館 松田 政信

二 つ の 目

かねがね、図書館員は常に二つの目を持たなければならないと考えています。その一つは専門家としての目です。もう一つは利用者の立場に立った目です。蔵書構成・図書の配架と表示・分類や目録・応待等々が適切で利用し易いか、二つの目で絶えずチェックする必要があります。しかし、図書館に長くいると、とかく利用者の目で見えることを忘れ勝ちになります。戒めるべきことだと思います。

幸い、仁愛女子短大図書館の利用は逐年増加して、現在全国の短大中20番目位ですが、今後もこの二つの目をよく開いて、ベストテン入りを目指して努力したいと思っています。

仁愛女子短期大学附属図書館 酒井 昌夫

生涯学習と図書館

本年6月8日の福井新聞に、県立図書館が「生涯学習熱で利用増」という見出しで、これからの図書館はさらに多様性と専門性を備えた蔵書、企画づくりを必要とする旨の記事が出ていたが、まさに時節到来の感がある。生涯教育の普及、実践、具現化にともなって、生涯学習の場として図書館が活用されることは当然のことといわねばならない。しかし、各館はこれをうけてその体制はいかかなものであろうか、まさに冷汗のおもいである。これらの問題に対処するためには、当然のこととして、県立図書館を中心とした、各館とのネットワークの強化と図書館活動の源資の確保が必要となってきていることは確かである。

今立町立図書館 長屋 善晶

行事案内コーナー

10月中旬～
63年3月末日まで

- ▶福井医科大学附属図書館
☆第8回北信地区医学図書館協議会 福井医科大学 10月22日
- ▶福井工業大学図書館
☆私立大学協議会西地区部会京都地区協議会主題別A(書誌)パピルス館(今立町新在家)10月23日 講師・林正巳氏(前図書館長・福井工業大学教授)テーマ「越前和紙を追って～書誌学以前～」紙漉き実習
- ▶仁愛女子短期大学附属図書館
☆私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会北陸部会研修会 武生学舎附属図書館 10月16日 研究討議及び越前和紙の里見学
- ▶敦賀市立図書館
☆チャリティー古本市 市立図書館 10月31日～11月1日
☆市立図書館新館10周年記念講演会 市立図書館 11月12日13:30～15:30 講師・山口正氏(茨城大学名誉教授)テーマ「くらしの中のことば」☆市読書会連絡協議会合同読書会 市立図書館 63年2月(予定)☆作文講座 市立図書館 63年3月3日 講師・山口正氏 テーマ「自分史・エッセイ・実用文等の書き方」
- ▶武生市立図書館
☆第23回武生市小中学校読書感想文コンクール 読書週間期間中 63年2月に「読書感想文優秀作品集」発行☆本とクリスマス 市立図書館 12月中旬
- ▶大野市図書館
☆いっしょに読もう会 市図書館 10月11日 テキスト 城山三郎著『素直な戦士たち』☆こどもの広場～大野の昔話を絵にしよう～ 市図書館 11月8日☆講演会 市図書館 63年3月27日 詳細未定☆春休み子ども1日図書館員 詳細未定
- ▶美山町立図書館
☆図書まつり 町立図書館 11月 町文化祭にあわせて図書館開放 希望図書等のアンケート調査
- ▶金津町立図書館
☆読書指導講話親子読書のすすめ方 町中央公民館 11月5日9:30～11:30 講師・谷出千代子氏 テーマ「絵本・幼少年読みものの選び方と与え方と親子読書について」☆合同読書会 町中央公民館 11月12日 テキスト『横笛草子』講話・三好修一郎氏☆百代の过客第3集編集“み越路”特集 町立図書館 62年1月～63年3月 西近江路・北国街道・北陸道に係わる史跡と文学碑を主にした石擲り探訪記
- ▶今立町立図書館
☆1日図書館員 町立図書館 10月17日☆文学散歩(読書会)11月中旬 詳細未定☆おはなしの会・毎月第1土

曜日 えいが会・毎月第2日曜日 みんなあつまれ／こどものひろば・毎月第3土曜日

- ▶朝日町立図書館
☆昭和62年度朝日町読書感想文コンクール 63年1月20日締切
- ▶清水町立図書館
☆清水町合同読書会 町立図書館 10月20日 テキスト かつおきんや著『鈴』☆子どもと本との出会いをつくる会 町立図書館 10月24日 読書会と茶話会☆かつおきんや講演会 町立図書館 10月31日14:00～ テーマ「子ども・本・おとな一明るい未来を日ざして」☆文学散歩～かつおきんやの作品の舞台を訪ねて～ 行先・金沢 11月15日
- ▶三方町立図書館
☆映画会 町立図書館 10月下旬, 63年2月下旬☆紙芝居と人形劇の講座 町立図書館 11月～63年2月全6回
☆クリスマスお楽しみ会 町立図書館 12月26日☆町民文学祭作品募集 63年1月10日～2月28日☆郷土歴史教室 町立図書館 63年3月中旬☆春休み子ども読書大会 町立図書館 63年3月下旬
- ▶県立図書館
☆県下読書グループ合同読書会(秋季) 丸岡温泉たけくらべ 10月25日 テキスト・中野重治著『愚かな女』☆「賞を受けた人と本」展 県立図書館 10月24日～11月1日☆第41回読書週間記念大会 県立図書館 11月8日13:20～15:00 第31回読書感想文コンクール入選者表彰・優良読書グループ表彰状伝達 講師・渡辺喜一郎氏(北陸高等学校教諭・散文学誌「青磁」同人) テーマ「石川淳文学との出会い」☆福井県図書館関係職員研修会(兼第3回職員実務講座) 福井大学附属図書館 12月15日13:00～15:40 講師・木村温美氏(福井大学附属図書館長・福井大学教授)テーマ「性別分業社会から共生社会へ」☆ふるさとの日記念ロビー企画展 県立図書館 63年2月

※この行事ご案内は報告いただいたものを掲載しました。

✿ 事務局通信 ✿

本号からページ数を増やしました。新設図書館紹介では坂井町立図書館および永平寺町立図書館の移動図書館をご紹介します。また、福井大学附属図書館の電算化や第28回福井県学校図書館研究大会の報告をいただき、今回は談話室コーナーにも多くの方々に登場をお願いしました。ご多忙中、執筆くださいました方々に心から厚く御礼申し上げます。